
異界の怪盗

タクヒ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異界の怪盗

【Nコード】

N7390J

【作者名】

タクヒ

【あらすじ】

怪盗一族の末裔として生まれた、ジョーカー。

ある一族がまだなお生み出し続けている数々の美術品の中に『ワールド・ピース』という、真っ白なパズルのような美術品があった・

第一話 始まりの夜に・・・

「お前さん、敵地に乗り込んでくる勇気があるのじゃな」

「どうってことないさ。俺には、この翼があるから」

すいている酒場で、銀髪の老人とフードをかぶった青年が酒を飲んでいた。

「で、また封印のことかろう」

老人が自信満々に言う。

「ああ。これなんだが・・・」

そういつて、青年がバッグから青い布にくるまれた、美しい女性の絵を取り出した。

「『聖なる女神』って絵画だ」

「ほほう、確かにものすごい魔力じゃな。三日はかかるわい。で、今度は何を盗むんじゃ？」

老人がうれしそうに聞く。

「盗むとは大げさだな。ちょっと拝借するだけだぜ。まあ、次は『ワールド・ピース』かな。あれも相当魔力が溜まってるからな」

「そうか。じゃが気をつけるのじゃぞ。あれはおかしな伝説がたくさんのかつとる」

「ああ、分かってるさ」

そういつて、フードの青年は酒場をあとにした。

数日たったある夜、王立美術館の周りで、警察たちが大掛かりな警備をしていた。

と言うのも12時ちょうどに『ワールド・ピース』を盗むというある怪盗からの予告状が届いたからである。

その怪盗の名は、

・・・ジョーカー・・・

「決して逃がすな！ 裏口に回りこめ！」

警察たちが怪盗ジョーカーを必死で追いかけている。

それもそのはず、今までに何度も有名な絵画を怪盗ジョーカーに盗まれている。

「あのおっさん、また怒鳴ってらあ。いくら警備を固めたところでオレにはカンケーねえっての。そろそろ分かれよな」

ジョーカーが笑いながら走っているのをみた警察たちが怒りながら突進してくるのをひらりとかわし、鍵のかかった扉を蹴り飛ばした。もちろんその部屋の中には『ワールド・ピース』が展示されている。

「これこれ。さてと・・・頂戴しますか？」

ジョーカーが部屋に入ろうとした瞬間、

「いない・・・？」

さっきまで追いかけていたはずの警官たちがいなくなっていた。

「まさか、ここまで・・・まずいな」

そのころ、警官たちもその不可思議な現象の中にいた。

「警部殿、ジョーカーがいません」

「くそっ・・・またか。いや、まだだ！飛行部隊を出せ！まだ間に合うかもしれん。」

そこに一人の警官が走りこんできて、叫んだ。

「待ってください、まだあります。『ワールド・ピース』はまだ盗まれていません！」

一方、ジョーカーは魔のアイテムと化した美術品の前で立ちすく

していた。

「とりあえず持ち出してから・・・」

考える暇もなく、急に世界が真っ暗になった・・・

第一話 始まりの夜に・・・（後書き）

今回が初投稿になります y（・3・）y
至らぬところもありますが、よろしく願います。

第二話 はじめまして！

「うーん？　ってか、砂漠〜！」

目を覚まして途方にくれているジョーカーの後ろで黙々と作業をしていた女性がこちらに気づいて近づいてきた。

「はじめまして。ご主人様！　お名前は．．．．．ジョーカー様でよろしかったですよね？」

は？　ご主人様？　と思いながらもその女性に質問を試みた。

「君は．．．．．えつと．．．．．」

「自己紹介が遅れてしまいました。私はミナ。『異界の旅人』を案内するために作られたアンドロイドです。」

「異界の旅人？　それにアンドロイドって．．．．．？」

「すみません、ご主人様。私どもは．．．．．」

「ああ、そのご主人様ってのは何とかならないか？　その．．．．．なんていうか．．．．．」

「では、王と！」

だめだ．．．．．こりゃあ。

「．．．．．分かった。つまり、オレはいろんな世界に散らばった『ワールドピース』のかけらを集めれば、もといた世界に帰れるんだな？」

「そうです、王様！」

「あつ、ああ．．．．．そうか。」

何度言ったら分かるんだ！

しかし．．．．．

「その、かけらはどこにあるんだ？」

「もちろん、心配しないでください。場所が分かったので、予告状

を出しておきました。」

「おお、そうか。ありが．．．と．．．う？　ちょっと待て。予告状を出したって？」

「はい、王様は怪盗だとお聞きしましたので。」

そういつてミナはにっこりと笑う。

「あはは．．．．．。で、いつ？」

「今夜の12時です。」

「はあ？」

「ここで、いいんだな？」

「はい。この世界で一番の大富豪の豪邸の金庫室にしまっておりま
す。ただ．．．．．。」

「ただ？」

「異次元の法則の関係上、私がそばにいませんとあなたは消滅して
しまうんです。」

マジかよ．．．．．そういうのはもつと早く．．．．．

突然に部屋が赤いランプで照らされ、サイレンが鳴り響く。

「やべえ！　逃げるぞ！」

ジョーカーがそう言いかけたとき、急に床が．．．．．
「落ちるゝ！」

第二話 はじめまして！（後書き）

やっと第二話の投稿です。

良ければ感想を聞かせてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7390j/>

異界の怪盗

2010年10月15日22時46分発行